

教科 【 美術 】

■生徒の状況

- ・全体的に意欲的に取り組んでいる。
- ・制作では、学習したことをもとに考え、色彩や形を生み出すことができる。
- ・鑑賞では、他者と交流する中で自分の考えを深めることができる。
- ・答えのある問いに対しては自信がもてるが、答えがなく、想像力を働かせる場面でアイデアが浮かばない生徒が多い。
- ・学習内容を理解するのに時間がかかり集中力が続かない生徒が一定数いる。

■指導における課題

- ・学習のねらいに対しての理解度に差があり制作スピードにばらつきが見られる。
- ・苦手意識のある生徒が「できた」を増やし自信をつける授業の組み立てが必要である。
- ・指示された内容に留まらず、積極的に創意工夫し、学びの深まりを実感するための手立ての工夫が必要である。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	・めあての設定のほか制作のゴールを明確にする。スモールステップで取り組めるよう、最低限ここまで達成してほしい基礎課題とチャレンジ課題を用意する。 ・自己調整能力を養うために個々に設定した課題に取り組む。大まかな計画を立て、振り返りの中で計画の見直しを行い、PDCA(P)サイクルで進め表現の可能性を広げる。
視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	・題材の導入時に授業の流れが理解できるようにするために、毎回の授業のめあてと制作の手順の資料を生徒に共有しいつでも閲覧できるようにする。
視点3 総合的な学習の時間との連携	・鑑賞では、作品の美術的背景だけにとどまらず、生徒にとって美術が身近に感じられるような視点をもたせ、鑑賞文やレポート作品として表現する。